



きずな

札幌市サッカースポーツ少年団連盟 広報紙
2018. 11. 14 No. 19

チャレンジリーグ・Fブロック



【惜しくも2位だったOneEightのダイナミックな攻撃】



LEAGUE REPORT
U-12サッカーリーグ
北海道札幌地区リーグ2018
3部リーグ Fブロック
(平成30年4月28日～9月1日)

最終順位(全日程終了)		
1位	札幌ジュニア	32
2位	OneEight	28
3位	篠路	22
4位	札幌中央	21
5位	清田緑	19
6位	札幌苗緑	17
7位	苗穂	9
8位	円山	2

3部リーグFブロックは、総合開会式の前日となる4月28日土曜日に開幕となりました。開幕初戦を札幌サッカーアミューズメントパーク(SSAP)で迎える好条件の中、最終日まで各チームが拮抗した試合を展開しました。参加チームはリーグ表順に 苗穂(東区) OneEight(中央区) 札幌苗緑(東区) 篠路(北区) 清田緑(清田区) 円山(中央区) 札幌中央(中央区) 札幌ジュニア(豊平区)と、どのチームも大会出場時に旋風を巻き起こす実力のあるチームばかりで、常に白熱した試合が行われるリーグでした。

全体を通じて、全7日程中、4日程で人工芝グラウンドが使用できたことは、子どもたちの試合をより円滑に、環境の整った中でゲームができ、各チームの負担(他学年への指導者配置等による影響)も最小限に抑えられたと思っています。



【恵まれた人工芝会場での開催(札幌大学サッカー場)】



【見事第1位の札幌ジュニア】

リーグ戦を常にけん引したのは言わずと知れた強豪・札幌ジュニア。降格による雪辱を1年で取り返そうと気合十分。開幕初戦の札幌中央戦こそ1対1のドロー発進となるものの、その後は安定した試合で着々と勝ち点を積み上げ、終わってみれば全14戦無敗(5引き分け含む)の1位通過。見事に1年で2部へ振り返り咲き、誰もが認める「圧勝」でした。特に中盤から前線にかけて縦横無尽に仕掛ける30番の動きと、安定した守備陣の中、5年生ながら高さとスピードを兼ね備えた35番の献身的な動きにはどのチームも苦しめられ、次年度へつながるチーム作りの象徴ともいべき内容でした。惜しくも2位となったOneEight。数年前のチーム創設以来、着実に実力をつけてきたチームです。特筆すべき中心選手が目立つのではなく、6年生全員が一丸となって戦うプレースタイルでチームワークもよく、

監督以下チーム一体となって常に取り組んでいる姿勢が印象的でした。こちら札幌ジュニア同様、全14試合無敗でしたが、引き分けの数が7試合あり、特に1位の札幌ジュニアとの直接対決は2戦ともにスコアレスドローだったこともあって、これが優勝と準優勝を決める差となりました。決めるべき場面でゴールを決めておくことによって勝ち星をしっかりと獲得できないと最終的な結果に反映してしまうという部分で、リーグ戦の非情な部分を見た気がします。同様に、3位篠路、4位札幌中央、5位清田緑の3チームも常に混戦のまま最終節へ。3チームの順位が毎試合ごとに変動しながら最終節の時点で3位札幌中央(17)、4位篠路(16)、5位清田緑(16)と得失点も含めての順位混戦状態の中、最終節で2戦全勝で勝ちきった篠路が僅差で3位浮上。札幌中央は最終戦で2位のOneEightにドローで勝ち点を伸ばさず4位。清田緑も最終節で追い越せず5位フィニッシュでしたが、最後の最後まで見逃せない試合を展開してくれました。



他にも、大型選手を擁し、個々の技術が高い札幌苗緑や戦術の中ですばらしいチームワークを発揮した苗穂など、次年度のリーグ戦では上位で脅威となるであろうチームもありました。今大会、残念ながら降格となった円山は、今季6年生が不在の中、5年生が中心となってチームをリードし、最後まで健闘したチームでした。同世代の大会(U-11)では好成績を出しているチームなので、来年の活躍に期待したいと思います。総評としては、札幌地区の各チームの力量差も年々縮まっており、スコアを見ても著しい大差も少なく、試合内容も高度になる分、その試合をコントロールする審判技術の向上が求められ、プレーオフ進出に順位が

影響することも含めて、今後指導者側の体制や審判技量の向上も課題と感じました。

また来年も、勝敗だけでなく、子どもたちにとってより素晴らしい環境を整えられるように皆さんで盛り上げたいと思います。